

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

武田壽夫(文、写真)、倉谷邦雄(写真)

日時：2017(平成 29)年 9 月 24 日(日) 9:30～15:30

気象：晴れ(12 時の気温：25℃)

活動エリア：「44 林班ろ」

活動内容：林床整備、枯損木除伐

参加者：倉谷邦雄、後藤和子、杉本佳英、武田壽夫、宮本廣、(午後参加)斧田一陽 (計 6 名)

<台風一過>

定例作業日の 17 日は台風 18 号の列島縦断予報で取り止め。一週遅れの今日の実施となった。朝は快晴、青い空に本山寺山の稜線がクッキリと見える絶好の活動日和。作業場所はモニタリング調査区がある尾根の東側山腹(44 林班ろ)。現場には自然歩道を分けて標高 450m の(ほぼ)水平な歩道を使うので尾根下までの移動は楽だが、そこから約 50m の登りには多少手こずる。見下ろすと下の作業道までの山腹は一面切り倒したままの木が散乱している。

台風一過で天気には心配はないが、この山腹は土が柔らかく傾斜地でもある為、常に足下注意。おまけに鋸を使う足場の確保にも気を使う。鋸も移動も、呉々も慎重を『ムネ』とすべし。

(なお、所々に岩が顔を出していて地面が緩い為、落石させないように注意も必要)

<大小 30 本以上の枯損木を除伐、約 0.1ha の林床を整備>

足を踏み入れて見ると結構枯損木が目につく場所で、高いものは 10m 前後はある。枯損木は幹を切り進むと揺れて倒れるより先に上部が折れて垂直に落下しかねない。時々上を見上げながら作業を進める。また、10m を越える高いものは直径 20cm 以上はあり、幹を切りきっても上が立木の枝に架って中々倒れてくれない。こうした厄介の上に、倒してから、斜面に下方向きに倒れたものを玉切りするのも足場が悪くて一苦勞。さらに、棚に積み上げる苦勞も待っている。おまけに足場はともすればズリ落ちてしまうので、危険も隣合わせである。

林床整備も同様、切り倒されたままで呑気に長々と寝そべっている放置木の玉切り・棚積みには、運搬も含め知恵と力を総動員。最後は、下の作業道まで落として路肩にも積み直した。

<今日の「生きものの記録」は>

恋の季節は過ぎたのか、野鳥の声は少なくなった。蝉はまだ鳴いている。足下には「ドングリ」、「秋来ぬと……」の和歌の季節が近づいているようだ。ということで、今日の「生きものの記録」は作業風景が中心。なお、自然歩道から小屋へ入る辺りに新しい猪道が出来ていた。前からあった沼田場は掘り返されていたし、どうやら猪の食事場所か運動場が近くにあるらしい。

(本文は以上)

【終了後—お疲れサマ】



【枝掛りした枯損木に苦勞する】



【やっと倒れて貰って玉切り中】



【鋸が噛まれぬように一人は幹を押して補助】



【孤軍奮闘①】



【孤軍奮闘②】



【場所を選んで棚積み中】



【玉切り作業—枯木でも芯は堅さが残っている】



【整備後の山腹】



【山腹下の作業道補強にも利用】

